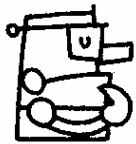


うらな せいざ 星占いの12星座は、だれが決めたの



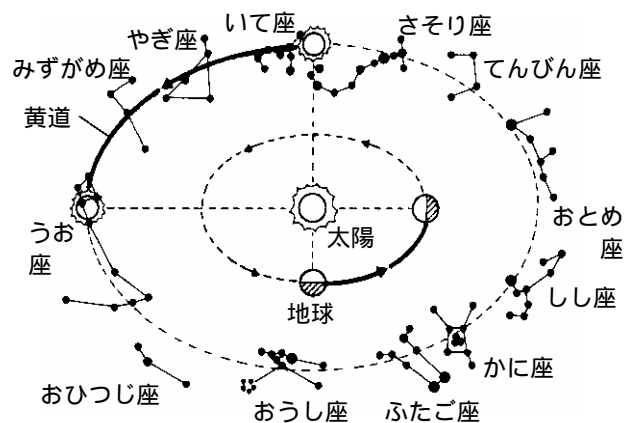
プトレマイオスが、12星座をふくむ48の星座をまとめたといわれているが、その前から使われていたのさ。

地球は、太陽の周りを1年かかって回っています。そのため、地球から見ると、太陽が星座の中を移動するように見えます。この太陽の通り道を黄道こうどうといい、月や、金星、木星、火星なども、黄道の近くを通ります。この太陽の通り道にある12の星座が、星占いなどに使われている12星座です。

5000年以上前、メソポタミア地方(今のイラクあたり)にすむヒツジ飼いのカルデア人が、毎日、夜空の星をながめているうちに、目につく星をつなぎ合わせて、星の並び方や動きと、季節や時刻じこくの関係を知るようになりました。つなぎ合わせた星のグループを、身近な動物や道具、伝説に出てくる人物などにあてはめて、名前をつけたのが、星座の始まりです。また、カルデア人は、黄道の星の群を12に分けて、名前をつけていました。これが12星座の始まりです。

プトレマイオスが書いた本に、12星座がある

今から約2100年前の、西暦120年ごろ、アレキサンドリア(今のエジプト北部)の天文学者プトレマイオスが、ギリシャの天文学をまとめた「アルマゲス」という本を書きました。その中に、48の星座が書かれていて、そのうちの12の星座が、黄道の上にある12星座です。



地球が太陽の周りを回るため、太陽が動いて見える